



ICRC

FACTS & FIGURES

2016年6月

数字とグラフでみるICRCの活動

 **13,431** 人

の職員が93カ国で働いています

シリアにいる

43,014 人



に安全な水を届け、衛生環境を整えました

ナイジェリアにいる

 **1,469** 人
に食料を届けました

コンゴ民主共和国の子ども

 **2** 人
が家族との再会を果たしました



アフガニスタンでは
身体に障がいを負った

359 人 

がリハビリテーションサービスを受けました

ソマリアにいる

2,292 人



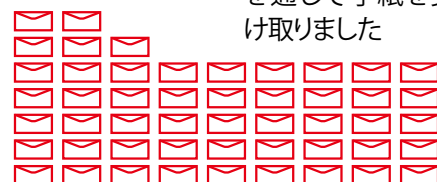
に生計に必要な肥料や種子
農具などを配りました

コロンビアで收容されている

233 人を訪問しました

261 人

が、戦争によって
家族と離れ離れに
なった後、赤十字
を通じて手紙を受
け取りました



2015年の活動規模



ICRC本部



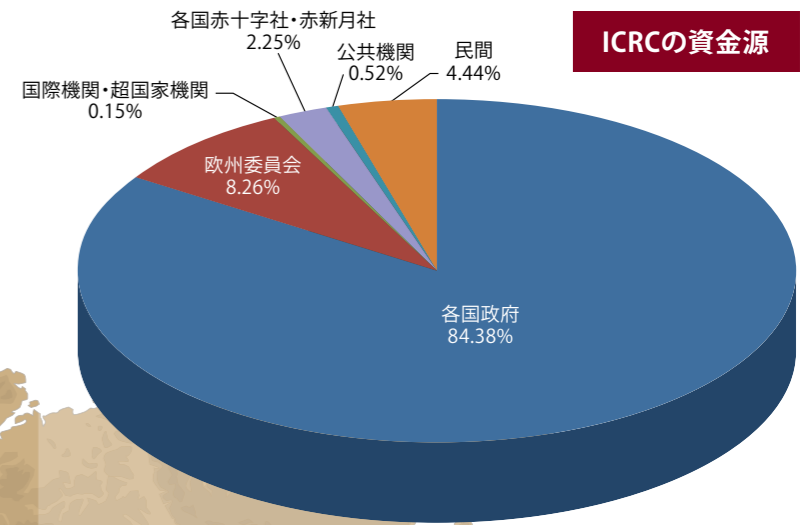
ICRC地域代表部



ICRC代表部



ICRC事務所



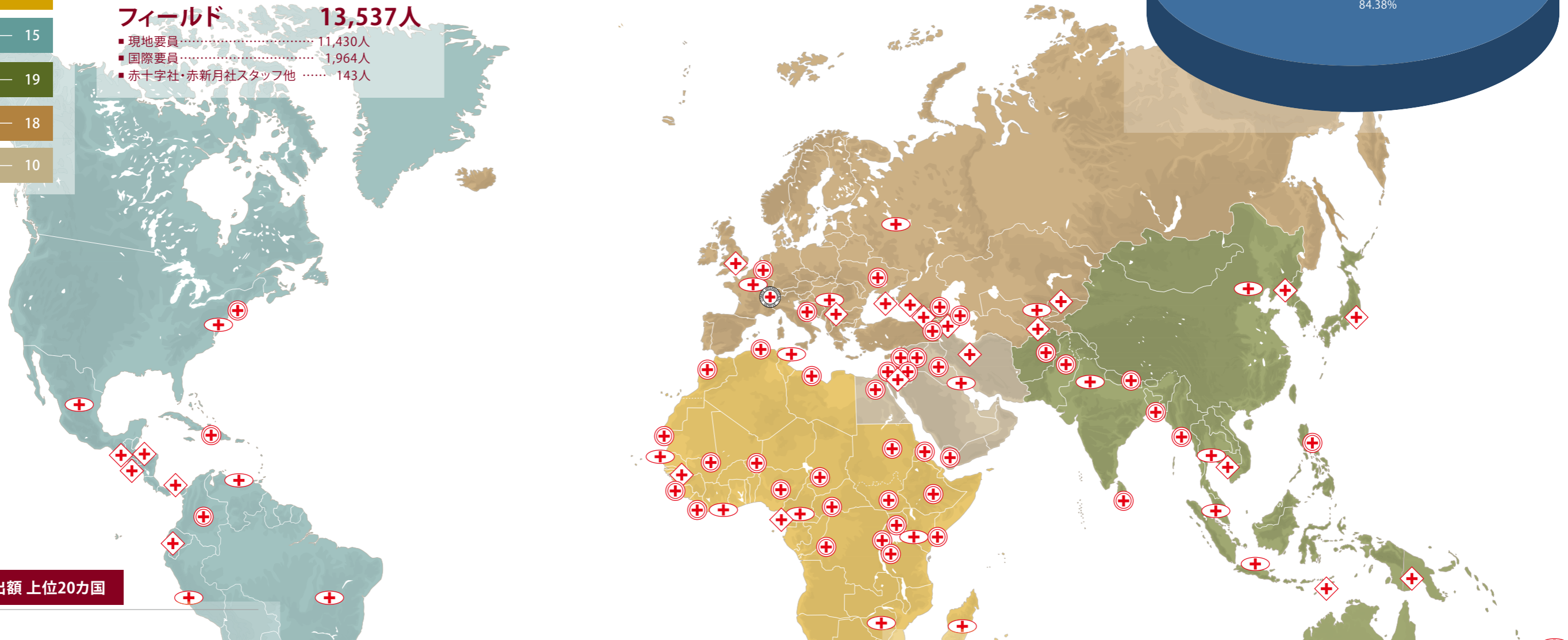
地域別ICRCの拠点



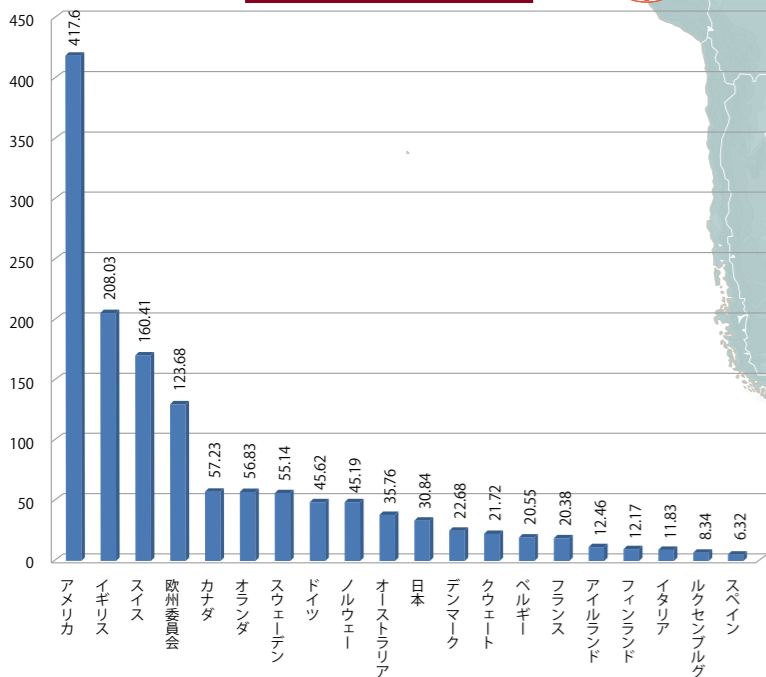
ICRCの職員数

ジュネーブ本部 **969人**
 フィールド **13,537人**

- 現地要員 11,430人
- 国際要員 1,964人
- 赤十字社・赤新月社スタッフ他 143人

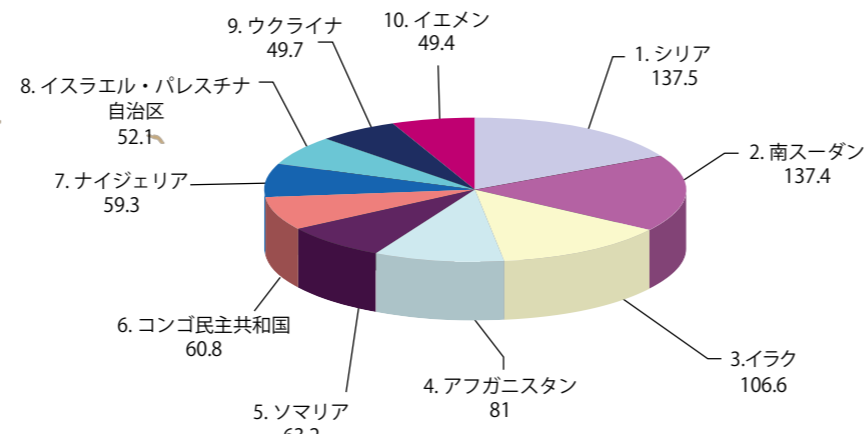


拠出額上位20カ国



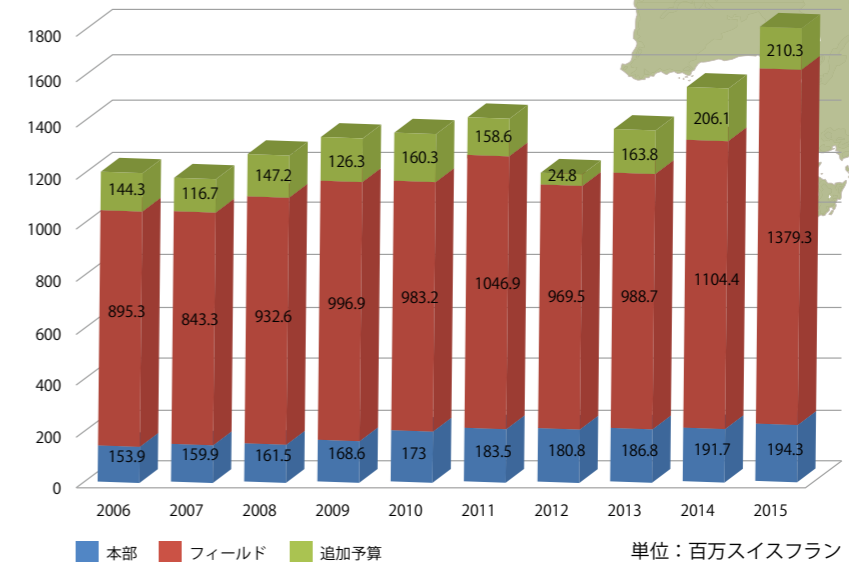
単位：百万スイスフラン

活動規模上位10カ国・地域



単位：百万スイスフラン

過去10年の活動変遷



単位：百万スイスフラン

1スイスフラン=約119円(2015年12月時点)

一年間のICRCの取り組み



家族の再会支援

12万9778通(うち被拘束者からは2万558通)の赤十字通信が寄せられ、10万6108通(うち1万685通は被拘束者宛)を届けました。また、47万9358件の家族間通話を支援しました。ICRC職員が家族にかけた電話は3万3405件に上りました。家族の行方について情報を掲載するICRCのウェブサイト「ファミリー・リンク」には4万6979人の氏名が公開されました。

ICRCは保護者がいない、または引き離された子ども3809人を登録。その中には元子ども兵士450人も含まれます。家族がみつきり再会を果たした子どもは968人でした。

水と住宅



ICRCのエンジニアは、53の国と地域で水・衛生施設の建設業務を展開し、3102万6588人の国内避難民、帰還者、地元住民が恩恵を受けました。受益者の多くは農村地域やインフラ不足、安全でないなどの理由により支援が行き届きにくく、移動の自由が制限された地域に住んでいます。

生計の安定



67の国と地域において、各家庭の経済的安定を目的とした支援を行いました。国内避難民や帰還者、地元住民、自由を奪われた人々1309万7863人に対して食料支援を、560万8435人に日用品や衛生用品を提供しました。330万3943人が自立を目指した食料生産プログラムや少額融資制度を通じた生活支援を受けました。また、163万5149人が就労機会を得たり、職業訓練を受けました。

被拘束者の訪問



96の国と地域にある1596の収容施設において92万8812人の被拘束者を訪問。うち、2万5734人(女性951人、未成年者1306人)を個別に面談しました。被拘束者のうち、2015年が最初の訪問・登録となったのは1万6660人(女性704人、未成年者1172人)です。ICRCの支援により、1万1501人の被拘束者が家族と面会しました。



医療支援

476の病院と286の医療施設を支援し、コミュニティベースの保健・衛生プログラムを26カ国で実施。武器による負傷者4万8115人とその他の理由による負傷者9万8491人が、29の国と地域にあるICRCの支援する病院に運ばれ、13万2312件の外科手術が行われました。



障がい者支援

ICRCの物理療法士は32の国と地域にある129の施設で支援を提供し、37万1884人の患者がサービスを受けました。また、2万872個の人工装具と8万8856個の整形器具を生産し、5648脚の車椅子を提供。その多くを当該国内の施設で生産しました。

障がい者支援プログラムの2本柱

地雷や戦闘、病気などに体が障がいが残る理由は様々です。ICRCは、紛争によって負傷した人々に障がいが残らないよう、予防に取り組んでいます。戦闘に巻き込まれた人には速やかに治療を施して、生活の質の低下を極力防ぎ、万が一障がいが残っても、彼ら特有のニーズに配慮した支援を行っています。その根幹を成すのが、「身体リハビリテーションプログラム(PRIP)」と「障がい者のための社会基金(SFD)」です。

PRIPでは、義肢義足や松葉づえ、車椅子を提供し、日常の動作を支える装具・器具によって再び社会に復帰できるよう心身両面でケアを行います。食事や外出、通学、就職などにおいて、障がいのない人と変わらない暮らしを送るためには、身体を自由に動かせるようになることが、まず最初の一歩だと考えています。

障がい者の社会復帰をさらに後押しするのがSFDです。他団体とも手を結んで、スポーツへの参加を促したり、障がい者支援団体へのサポートや啓蒙キャンペーンを実施したりしています。職業訓練やビジネスを始めるための小規模融資も行い、経済的な自立を促します。

また、「障がいを忘れて心から楽しめる何か」に打ち込める機会を提供するのも重要です。ICRCは、バスケットボールやサッカー、バレーボール、クリケットなどのスポーツチームを結成。スポーツへの参加は身体のトレーニングにつながるだけでなく、精神面・社会面でのポジティブな影響を生み出します。障がいのある人々が充実した生活が送れるよう後押ししています。

法医学サービス

行方不明者の捜索や保護を目的とした法医学サービスを69カ国以上で提供。主に遺体や遺留物の特定等、長年の経験を基に推進し、支援しました。

広報活動

2015年もICRCの人道支援活動はメディアで広く取り扱われました。ICRCがマスメディアで言及されたのは1万5000回でした。

人道法の普及と国内法への適用

戦時の決まりごとである人道法関連条約の批准と国内法への適用について、ICRCは引き続き世界各国の行政機関との対話を行っています。2015年にはベネズエラ・ボリバル共和国で国内委員会が設立されました。

武器携帯者との関係構築

紛争地帯で武器を携帯する軍人、警察官、武装グループ等と対話の機会を持ちました。ICRC専門家が、165カ国で20万3000人の軍人、護衛官、警察官を対象に1570のワークショップや円卓会議を実施しました。また、25カ国で約100の武装グループとの対話関係を構築しました。

情報・ドキュメント管理及びマルチ言語コミュニケーション

距離にして20キロメートル以上のデータや資料を取り扱うICRCのアーカイブ・情報管理局は、2600件の問い合わせに対応しました。また保護・追跡アーカイブユニットには、過去の紛争犠牲者から2100件以上の情報依頼が寄せられました。ICRC本部のアーカイブには2300人が訪問しました。

武器汚染処理

武器汚染処理の分野では、35の国と地域において各国赤十字社・赤新月社、国内行政機関をサポートしました。

アカデミックとの関係構築

120カ国以上の大学において人道法関連の授業をサポートしました。人道法に関する地域別または国際的なトレーニングセミナーを7回開催し、また人道法に関する地域別コンペは4回開催しました。200人の教授、講師、大学院生が参加しました。



赤十字国際委員会 駐日事務所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-13-1 虎ノ門40MTビル6階
TEL: 03-6459-0750 / FAX: 03-6459-0751
Twitter @ICRC_jp

ICRC

ICRC駐日事務所

検索